

第 8 回県西地域活性化推進協議会 結果概要

(H29. 3 .27 14:30 ~ 15:30 於：神奈川県小田原合同庁舎 3 階会議室)

開会

平成 28 年度の県西地域活性化プロジェクトの取組状況、地域再生計画について、平成 29 年度の県西地域活性化プロジェクトの取組について、事務局から説明（資料 1 から 3）

知事あいさつ

黒岩知事

本日は大変お忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

この県西地域活性化プロジェクト、スタートから 3 年が経過いたしました。3 年目となる今年度は、未病いやしの里の駅、未病を改善するツーリズム、県西未病観光コンシェルジュなどの取組みについて、一層の拡充や具体化を図るとともに、プロジェクトの P R にも積極的に取り組んでまいりました。

昨年 11 月には、横浜銀行、県西地域 2 市 8 町と一緒に記者会見を行いまして、「未病の改善」につながる金融商品の取扱いが開始されるなど、「未病の改善」をキーワードにした取組みが広く展開されるようになってまいりました。また、昨年 9 月に、地域再生計画をとりまとめ、地方創生推進交付金を申請しておりましたが、その後、国からの認定を受けることができました。

来年度には、いよいよ「未病いやしの里センター（仮称）」の第 1 期オープンを迎えますが、国の交付金も活用しながら、県西地域活性化の取組みをさらに進めたいと考えているところです。こうした中で、先日は、この「未病いやしの里センター（仮称）」を P R するためのイベントとして、「ME - B Y O フェスタ 2017 春」を開催いたしました。様々なスポーツイベントが実施され、大変な盛り上がりだったと聞いております。開催に当たりまして、委員の皆さまにお力添えをいただいたこと、この場をお借りして感謝申

交通事情により知事の出席が遅れたため、議題 3 の後に知事挨拶を実施。

し上げます。

先日まとめました政府の「健康・医療戦略」の中に「未病」という言葉が正式に位置づけられました。そしてWHOとの交流もどんどん盛んになっております。実は今朝も、WHOと神奈川県で、未病をコンセプトとした1つの教育のプログラムが行われておりまして、WHOからも人が来て、アジアの将来のリーダーたちが集まって、未病というものをともに学んでいる。こういうことにもなっております。この秋には2回目の「ME - BYO サミット in 箱根」も開かれます。未病コンセプトをしっかりと浸透させながら、広く世界に向けて発信していく、その流れを加速させていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

県西地域活性化プロジェクト推進交付金事業の取組状況について、各団体
()から説明(資料4 - 1から4 - 6)

()南足柄市副市長、箱根町長、真鶴町長、湯河原町長、小田原箱根商工会議所理事事務局長、富士フイルム(株)R & D統括本部シニアマネージャー

質疑・意見交換

渡辺慶應義塾大学教授

本日にすばらしい取組みを3年間やっていただいております。昨日、NHKスペシャルで認知症の特集があったのを御覧になった方もいると思いますが、2025年には認知症患者と軽度認知機能の低下の人と合わせて1,300万人。1億2,000万人のうちの10%以上が認知症になる、ものすごい時代に入ります。この中で地域の取組みというのが、行政主導とともに住民からの盛り上がりが必要かなと思います。行政だけでは不可能というのは分かっているんですね。住民がいかに盛り上がるか。その仕掛け作りというのは、湯河原で活動させていただいている中では、住民の方々は行政のお墨付きがあるということを凄く大事にされるんですね。ということは、行政は民主体というのですが、行政も緩くても関わっていないと住民は動かないというのがあります。そういうことから住民が、なぜ未病が大事なのか、ということをも十分認識すること。昨日のNHKスペシャルでも、知事が普段おっしゃるとおりなんですね。認知症になる

のは 80 歳ですけれども、軽度認知症になるのはその 10 年前、実際の脳の変化が始まるのは 50 代からなので、そのグラデーションなんですね。その前の 30 代、40 代の運動不足というのがあって、グラデーションの中で考えると、どの世代も未病ということを経験した活動が重要で、住民も巻き込んだ大きなうねりになる。それを県西から発信できるということになれば、素晴らしい成功だと思います。

湯河原町長

今の渡辺先生のお話の続きというか、湯河原町の立場で少し。渡辺先生がお話したとおり、渡辺先生との取組みの中で、住民も、未病という言葉の内容、印象については浸透してきていますが、初めは未病をどうやって地域で取り組んでいくんだと、行政だけではもちろんできない中で、度合いはあるにせよある程度関わっていかないと、なかなか住民の方々に、言葉が悪いですが疑われるというか、ある意味行政が関わることによって、事業や取組みの信用性みたいなものというのがあったかなという印象をもったところです。

小さな子どもたちとお年寄りとの関係、そういった場所が誕生して、地域の方々が子どもたちのためにいろいろな形で関わって行って、認知症予防であったり、未病対策になっていく人と人とのつながりみたいなものが、そこに拠点がようやく生まれてきた。その中で、ある程度行政が PR も含めて後押しをしていかないと。小さな町ですので、何がそこに誕生したんだということも、よくある SNS だけでは、逆に地域の小さな円の中では、なかなか情報共有できないという印象がありますので、少し先生のお話について、地元として加えさせていただいたところです。

松田町長

今日説明をいただいて、先ほどのお話もそうですが、未病の体験をするのが、なんとなく健康の維持をするために測ったりですとか、当然データも必要だと思のですが、非常に、このことについて考えるところがあって、せっかくやるのならば楽しもうと。フリーに考えると、楽しいことって意外と続けられるというような思いがありまして、未病の体験なども含めて、楽しそう、面白そう、だから行ってみようという格好かなと。知事から今年に入って「スマイル」

というお言葉をいただいて、まさにその辺のことなのだろうなというふうに思っています。

今回御説明をいただいて、平成 29 年度活性化プロジェクトということで、我々行政も民間の方もいらっしゃいますが、比較的硬い感じがして、もう少しスマイル的な柔らかい表現の中で、未病って楽しいものなんだよと。「食」「運動」「社会参加」も、その延長線上に超高齢社会を迎えるにあたって、笑顔で迎えられるような地域づくり。県西地域に行けば健康寿命が延びるという硬い話ではなくて、もう少しソフト面のような取組みがプラスアルファされてくると、これまでの取組みとプラスアルファが鮮明になってくるのかなと思っています。

小田原市長

今日、資料 1 の中に小田原の取組みも載せていただいていますけれども、魚の取組みの進捗状況をお話したいと思います。県の方で主体的に進めていただいております漁港の整備事業も県のフェーズから、今度市の方の整備のフェーズに移ってきます。市漁協が整備する加工・荷捌き施設がもうじき完成してまいります。30 年度末には、それを使った直販施設も完成予定ということで、魚を使った未病につながる取組みが動いてまいります。小田原で加工・荷捌き施設等を使って処理しようと思っているのは、たくさん取れても、最近魚を丸で買わなくなっています。イワシ、サバ、またソウダガツオ、こういった青魚系はご承知のとおり健康増進効果が高いということで、ある程度加工した状態でマーケットに流していくための施設を、今回整備していくことになります。

したがってそのあたりの商品の供給力も高まってくる中では、全体の未病に、水産物の分野から貢献していけるものとして、進めておりますので、御期待いただければと思います。

山北町長

県西地域の活性化については、いろいろな取組みの中で、山北町におきましては洒水の滝や中川温泉等、様々なものがございます。そういった中で、特に去年あたりから「ユーシンブルー」が非常に話題になっておりまして、大勢の方に来ていただいているのですが、そのようなものを何とか未病につなげていけ

ないかということで、今、鋭意、いろいろと考えておりますけれども、皆さんの中でもそういったアイデアがあれば、県の方にもお願いし、取り組んでまいりたいと思っております。いずれにいたしましても、県西地域を未病で盛り上げていきたいと思っております。

開成町長

私の町は、300年の古民家、瀬戸屋敷という未病いやしの里の駅の登録施設がありまして、この4月から指定管理者制度を導入し、民間の力を借りてもっと交流人口を増やしていきたいと思っております。

中井町長

まず、先ほど説明がありました「県西地域における今後の事業展開のイメージ図」という中の10番で「なかい里都(さと)まちC A F E」の分が出てまして、私、今初めて知った感じですがけれども、これがどういう形になるか。未病センターとはまた違うと思いますので、この展開が、うちのほうが加速化交付金を使って進めていくところとリンクするのかどうか。その辺のところをお伺いいたします。

町自体は昨年の4月に、公の部分でいうと、県西地域で初めて県の未病センターとして認証されたと思っております。それから1年なのですが、高齢者の方が主体ですがけれども、いろいろ体力測定、健康チェックに来ていただいているのですが、いまひとつ利用者が伸びていかないなど。いろいろ土日の営業とかやってきましたけれども、もともと人口が少ないのでそれほど伸びないと言われればそれで終わりなのですが、どうすれば利用していただけるか、改めて考えていきたいと思っております。

事務局

ここに記載させていただいているのは、このプロジェクトを初め、各市町の「にぎわい」を生む取組みということで記載させていただいております。直接プロジェクトにということではなく、中井町さんの総合運動公園の中にカフェができる、「にぎわい」が生まれていくということで、関連ということで記載をしております。

県西地域県政総合センター所長

その件につきましては、運動の駅にもなっておりますので、是非そういう格好で使っていただけるようお願いいたします。

それから、未病センターのお話がありましたが、ここでほぼ全部の2市8町のみなさんに設置いただける格好になってきました。未病産業ですとか、そちらの方は、我々の方も一緒になって、例えば、巡回して新しいことをやっているとかですね、そういうことをサポートしていきたいと思っております。

大井町

県西地域活性化のプロジェクトもどんどん進展をしてくれていますし、「未病いやしの里センター（仮称）」をブルックスさんと神奈川県さん、大井町と7月に協定が結ばれたということで、いろいろな事業展開をしています。当初は遅れていた点もありましたが、ここにきて追いついてきたのかなという思いです。

3団体で協議をして進めていて、来年の3月に第1期オープンにこぎつける訳ですが、これについては是非、県西地域2市8町のお力を借りていかなければならないですし、2市8町の行政だけではなく官民一体となって、お力添えを賜りたいと、そんな思いでいっぱいあります。

何はともあれ、あと1年というのは、長そうでありますけれども、カレンダーを1枚ずつめくっていきますと、12枚しかありません。そんな中で、6月あたりまでが私は勝負じゃなかろうかという思いです。新年度がスタートしますと、たったカレンダー2枚めくったところで、大よその事業展開ができるような、概要が決まっていなければなかろうかという思いでいるところです。

どうか今後とも、2市8町の官民合わせて御協力いただけますことを、この場を借りまして、お願い申し上げます。

知事

未病の戦略的エリアということでやってきて、そして今御報告ありましたけれども、様々な、科学的な、多面的な展開をしてくださって、心から感謝申し上げます。

そんな中で改めて確認をしておきたいのですが、「未病」という言葉、これをなるべく皆さんに見えるような形で出していただきたい、意識して出していきたいと思います。「健康」であるとか「癒し」であるとか、そういう言葉に置き換えてアピールしていますと、「未病の改善」の趣旨はそうですけれども、「未病」という言葉で広げていこうというのが非常に重要なポイントだと私は思っております。

長年やってきたおかげがあって、先ほど冒頭でも申し上げましたが、政府の「健康・医療戦略」に「未病」という言葉が入った、これが閣議決定されました。そうすると、これまで未病という言葉に極めて距離を置いていた厚生労働省も、今厚生労働省の課長自身が、あちらこちらにいつて未病という言葉を使い始めているという、大きな地殻変動がおきています。この流れを我々しっかりと受け止めることが大事であります。

先ほど申し上げたとおり、「ME - BYOサミット in 箱根」、この国際会議が行われるということで、未病を一気に広げるチャンスであると思っておりますので、未病が皆に見えるということを是非、改めて確認をお願いしたいと思います。

それと、ここは県西地域活性化推進協議会という場にありますから、未病ということのをどのように地域の活性化につなげるかという視点で議論しておりますけれども、住民の皆さんの未病改善ということも非常に重要な課題であります。先ほど楽しさというアピールがありました、まさにそのとおりだと思います。私も昨日の認知症のスペシャル番組を見ておりましたけれども、いいことをやりましょうとみなさんに声をかけても、なかなか集まらない。何か楽しいことをやっているという仕掛けの中でさらっと寄り添っていくという、そういう中でいつの間にか自分の未病改善。認知症はまさに未病コンセプトそのものでありますから、そういったものを改善につなげていく仕掛けを作っていくという、こういった行政のあり方、関わり方というのも一緒になって追求していきたい、そのように思っているところでございます。

認知症と糖尿病は、未病コンセプトが実に分かりやすく、皆さんの生活実感として展開できる話でありますので、住民が皆さん動いている、そして動いている住民だけでなく、この地域が観光の魅力としても動いている。そういう複合的な形での未病の展開をすることによって、住んでる人も未病改善、来た

人も未病改善、皆がハッピーになっていく、スマイルになっていく。そんな形で展開していきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いしたいと思います。

閉会